



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp宛にお送りください。折り返し、受領の連絡をいたします。

人事公募結果

東京大学大学院理学系研究科附属 天文学教育研究センター 教員

1. 掲載号：2023年01月（第116巻1号）
2. 結果（前所属）：左近樹（東京大学大学院理学系研究科 助教）
3. 着任時期：2023年9月1日

人事公募

東京大学宇宙線研究所 助教

1. 職種及び公募人員：助教（テニュアトラック）1名
2. 職務内容（専門分野）等：本研究所附属重力波観測研究施設では、KAGRAによる重力波国際共同観測とコミッショニングを行っています。当施設に所属して重力波研究を進めるとともに、KAGRAの主干渉計制御の改良による感度向上や、そのために必要となる電子回路を含む干渉計制御システムの開発、もしくはネットワークを含むデータ転送機器やデータ解析サーバーの導入・管理・運用などによりKAGRA計画に貢献できる方を求めます。また、本施設の運営にも参画してもらいます。これまでの研究分野は問いません。
3. 勤務地：宇宙線研究所附属重力波観測研究施設（岐阜県飛騨市神岡町）
4. 応募資格：雇用の時点で博士号を取得している者。性別・国籍・研究経歴によらず、広く関連する研究分野から活発な応募を期待します。
5. 着任時期：決定後なるべく早い時期
6. 任期：任期5年。着任後3年間をテニュアトラック期間とし、3年が経過した時点でテニュア着任の審査を行い、審査で認められれば任期なしに移行します。テニュアトラック期間は、研究予算

- 100万円/年のスタートアップ支援をします。
7. 就業時間：専門業務型裁量労働制により、1日7時間45分・週5日勤務したものとみなされます。
8. 休日：土・日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
9. 賃金等：大学の規定に基づき、学歴・職務経験等を考慮して決定。
10. 加入保険：文部科学省共済組合、雇用保険に加入。
11. 提出書類等：以下（1）から（5）までの書類を、Eメールに添付（電子ファイル）で提出してください。（6）の意見書・推薦書は、作成者から直接Eメールに添付で応募締切日までに提出してください。応募書類・意見書・推薦書のファイル形式はpdfとします。Eメールによる提出に対しては、受信した旨の返信をしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。
 - （1）履歴書（博士号の有無・取得見込み、電子メールアドレスを必ず記入のこと）
 - （2）研究歴（A4版で3頁以内）
 - （3）業績リスト（論文リスト、研究発表リスト等）、及び主要論文別刷（5編以内）。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。
 - （4）着任可能時期
 - （5）着任後の研究計画（A4版で3頁以内）
 - （6）意見書または推薦書2通
12. 応募締切：令和5年10月20日（金）12時必着。
13. 選考：選考は、書類選考の後、最終選考は面接により行います。（面接を受けていただく方には詳細を連絡します。）
14. その他：
 - （1）「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。
 - （2）外為法等の定めにより、採用時点で、海外との兼業や、外国政府等からの多額の収入がある場合、研究上の技術の共有が制限され、本学教職員としての職務の達成が困難となる可能性があることから、このような場合、兼業等については、本学における研究上の技術の

共有に支障のない範囲に留める必要があります。

- (3) 試用期間あり (6ヶ月)
- (4) 受動喫煙防止措置の状況: 敷地内禁煙 (屋外に喫煙場所あり)

15. 送付先: Eメール application_at_icrr.u-tokyo.ac.jp
(応募書類, 意見書共このアドレスにお送りください。またメールを送信する際は_at_を@に直してください)

メールの件名に公募番号の「ICRR2023-06」を明記してください。

16. 問合せ先: 重力波観測研究施設長 大橋正健
電話 0578-85-2343

Eメール mohashi_at_icrr.u-tokyo.ac.jp
(メールを送信する際は_at_を@に直してください)

17. 募集者名称: 国立大学法人東京大学

研究会・集案案内

第5回量子線イメージング研究会

赤外線・X線・ガンマ線等の光子や, 電子, 中性子, 分子, イオンといった量子線を検出・解析する科学技術は, 素粒子・原子核物理学, 宇宙物理学, 物質科学から生命科学, 医学にいたる広い分野で重要な貢献を果たしてきました。近年, これらの領域のイメージング検出技術が著しく発展しています。また, 理学・工学や産官学の連携も進み, 新展開が生まれつつあります。ここに, 分野を横断して「量子線イメージング」を議論する場を設け, 科学技術の発展と新分野の創成を目指した研究会を開催します。

第5回目である今年, 大阪大学豊中キャンパスにおける対面と, オンラインのハイブリッド形式で開催します。

研究者や技術者等多くの方にご参加いただきたく思います。

日時: 2023年9月28日(木), 29日(金)

開催形式: 大阪大学豊中キャンパス南部陽一郎ホール
+zoomのハイブリッド

(コロナ禍の状況によりますが国内参加者は対面会議で, 海外からの参加者は基本的にzoom参加のハイブリッドを予定)

基調講演:

- Steve Holland (Lawrence Berkeley National Laboratory)
- Kai Vetter (Lawrence Berkeley National Laboratory)

tory)

招待講演:

- 大田良亮 (浜松ホトニクス)
“Development of high-speed electron-beam imaging using SOI image sensors”
- 石田高史 (名古屋大学)
“SOIイメージセンサーを用いた高速電子線イメージング法の開発”
- Sundararajan Balasekaran (住友電工)
“Development of Type-II Superlattice image sensors for high-sensitivity applications”
- Futa Mochizuki (Sony Semiconductor Solutions)
“A 2.97 μm -pitch Event-based Vision Sensor with Shared Pixel Front-end Circuitry and Low-noise Intensity Readout Mode”
- Kazuhiro Terao (SLAC)
“ニュートリノイメージング (仮題)”

その他の基調講演者・招待講演者も現在交渉中です。

研究会 Web ページ: <https://qbi2023.github.io/>

主催: 量子線イメージング研究会実行委員会

後援: 各種学会に依頼中

Scientific Organizing Committee:

- 常深博 (大阪大)
- 新井康夫 (KEK)
- 大久保雅隆 (産総研)
- 片山晴善 (JAXA)
- 高橋忠幸 (東京大IPMU)
- 鶴 剛 (京都市)
- 中村哲 (東大)
- 初井宇記 (理研)
- 宮崎聡 (国立天文台)
- 山谷泰賀 (量子科学技術研究開発機構)
- 安富啓太 (静岡大)
- 松本浩典 (大阪大)

「東京大学木曾観測所及び名古屋大学宇宙地球環境研究所」特別公開のお知らせ

東京大学木曾観測所及び名古屋大学宇宙地球環境研究所を一般の皆様にご公開いたします。当日は望遠鏡や観測装置を間近に見ることができ、講演会、研究紹介なども行います。1日目の夜には観望会も行いますので, ぜひご来場ください。

◆開催日時:

2023年9月16日(土)

* 13:00~18:00 望遠鏡デモンストレーション, 研究

紹介など

* 15:00～16:30 講演会

吉田英人（東京大学理学系研究科技術部特任専門職員，前技術部技術長）

『小惑星リュウグウの石は太陽系始まりの特徴を持っていた～持ち帰らないとわからないこと～』

* 19:00～21:00 天体観望会（雨天中止）

2023年9月17日(日)

* 10:00～16:00 望遠鏡デモンストレーション，研究紹介など

* 14:00～15:00 講演会

新納悠（東京大学木曾観測所助教）

『トモエゴゼンが見つめる激動の宇宙』

◆開催場所：東京大学木曾観測所（長野県木曾郡木曾町三岳 10762-30）

◆交通：JR中央西線木曾福島駅または上松駅から車で約30分

◆問い合わせ先：木曾観測所 TEL: 0264-52-3360
木曾観測所ホームページ：

<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kisohp/>

名古屋大学宇宙地球環境研究所ホームページ：

<http://stsw1.isee.nagoya-u.ac.jp/>

※施設公開・講演会ともに事前申し込みは不要で，入場無料です。

※講演会はYouTubeでもライブ配信します。

賞の推薦

2023年度宇宙科学奨励賞公募のご案内

公益財団法人宇宙科学振興会では，宇宙科学分野で優れた研究業績を挙げ，将来の宇宙科学の発展に大きな役割を果たすことが期待される若い研究者を顕彰し，宇宙科学奨励賞を授与いたします。ここに2023年度の第16回宇宙科学奨励賞候補者のご推薦を募集いたします。推薦要綱の詳細は当財団のホームページ (<http://www.spss.or.jp>) に掲示しておりますが，当奨励賞の概要は以下の通りです。皆様の周りで優れた業績を挙げ将来の活躍が期待される若手研究者をご存知の際には，是非ともご推挙いただきますようお願い申し上げます。

表彰の趣旨：宇宙理学（飛行体を用いた観測，探査，実験に関連する理学研究）分野及び宇宙工学分野で独創的な研究を行い，宇宙科学の進展に寄与する優れた研究業績をあげた若手研究者個人を顕彰する。この賞が対象とする分野には，地球観測や宇宙環境を利用し

た理学研究・工学研究も含まれる。

授与機関：公益財団法人 宇宙科学振興会

候補者：上記分野で優れた業績をあげた当該年度の4月1日現在37歳以下の若手研究者個人。候補者の推薦は他薦に限る。

業績の審査：業績の審査は，推薦理由となる研究業績に関連して発表された論文に基づいて，当財団が設置する選考委員会において行う。

賞の内容：授賞は原則として毎年宇宙理学関係1名，宇宙工学関係1名とする（ただし適格者のいない場合は受賞者なしとする場合がある）。受賞者には本賞（賞状と表彰楯）および副賞（賞金30万円）が贈られる。推薦締切日：2023年10月31日(火) 必着。

表彰式：選考結果は2024年1月に推薦者と受賞者に通知するとともに，当財団ホームページにおいて発表する。その後2024年3月初旬に表彰式を行い，受賞者には受賞対象となった研究に関する講演をして頂く。

なお，推薦の手続きの詳細については財団のホームページ (<http://www.spss.or.jp>) をご覧いただき，推薦書式をダウンロードして必要事項を記載の上，(1) 候補者の略歴，(2) 業績全般を示す論文のリスト，および(3) 推薦の対象となる論文の別刷等必要書類を添付の上，電子メールにてご提出下さい。

お問い合わせ先および推薦書送付先：

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1

公益財団法人宇宙科学振興会 事務局

E-mail: admin@spss.or.jp

Tel: 042-751-1126 (火，木)

2023年度日本天文学会林忠四郎賞受賞候補者および欧文研究報告論文賞受賞候補論文推薦のお願い

林忠四郎賞選考委員会

標記の二つの賞について，受賞候補者と論文の推薦をお願いします。締切は両賞とも2023年11月6日(月) (必着) です。以下に述べるそれぞれの要領に従って記入した推薦書を，〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会宛に郵送してください（論文賞についてはe-mailも可）。なお，封筒には「林忠四郎賞候補者推薦書」または「欧文研究報告論文賞候補推薦書」と表記してください。特に返送等のお申し出がない限り，推薦書類は選考後に破棄します。授賞式は，林忠四郎賞については春季年会時，欧文研究報告論文賞については秋季年会時の会員全体集会にて行う予定です。林忠四郎賞の推薦は

2年間有効です。欧文研究報告論文賞の推薦は毎年リセットされます。「原則として1年に2件以内」と内規に定めがありますので、優れた論文であっても受賞に至らない場合があります。その場合、優れた論文は複数回推薦していただくことを奨励します。

2023年度（第28回）林忠四郎賞推薦要領

この賞は、林忠四郎博士が1995年11月に第11回京都賞を授与されたのを記念し、「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士より日本天文学会にいただいた寄付を基金にして設定されたものです。なお、本賞は、他薦のみとなっています。

対象：広い意味での天文学（天体物理学、宇宙物理学、他の関連テーマも含む）における独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授与する。

受賞資格：本年度当初においてすでに本会正会員である者（個人または少人数の研究グループ）。

授賞件数：原則として1件。

賞状等：本賞として賞状、副賞として賞牌（メダル）および賞金（30万円）を授与する。

推薦書の形式：表題は「2023年度林忠四郎賞候補者推薦書」としてください。A4サイズ用紙に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補者（被推薦者、連名授賞可）について：氏名（ふりがな）、生年月日、大学卒業年、現職および連絡先（電話、FAX、e-mail）
- 2) 授賞対象とする研究の表題（英語表記も併記）
- 3) 推薦者について：氏名（ふりがな）、現職、連絡先（電話、FAX、e-mail）、被推薦者との関係
- 4) 推薦理由の要旨（300字以内）
- 5) 推薦理由
- 6) 関連する論文のリスト
- 7) 添付資料として、推薦に関連して最も重要な論文のコピー（3編以内）

2023年度（第28回）欧文研究報告論文賞推薦要領

この賞は、日本天文学会欧文研究報告（Publications of the Astronomical Society of Japan (PASJ)）に出版された優れた論文を称賛し、今後も優れた論文が投稿・出版されることを奨励するために設定したものです。なお本賞の選考委員会は、林忠四郎賞選考委員会が兼ねています。

この度、内規改定により、本賞は論文を対象とした賞であることが明確化されました。よって、これまでの「被推薦者との関係」の記載は不要となり、論文の著者（共著者を含む）からの推薦も可能です。

対象論文：原則として2018年12月から本賞締め切り

までに発行されたPASJに掲載された論文の中で、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文をその対象とする。

授賞件数等：原則として2件以内。受賞論文の著者（共著の場合は、すべての共著者）に賞状を授与するとともに、受賞記念講演日より三年以内に投稿された論文一編について、その本文掲載料を無料にするともに、フリーアクセスにて公開する。

推薦書の形式：表題は「2023年度欧文研究報告論文賞候補推薦書」としてください。A4サイズ用紙（e-mailでも可）に、次の順序で横書きにしてください。

- 1) 候補論文について：論文題目、筆頭著者名、出版された巻、ページ、発行年
- 2) 推薦理由（1,000字程度）
- 3) 推薦者について：氏名（ふりがな）、現職、連絡先（電話、Fax、e-mail）
- 4) e-mailで推薦する場合はjimu(a)asj.or.jp宛に送信して、受領メールを必ず確認してください。

2023年度（第35回）研究奨励賞候補者推薦のお願い

研究奨励賞選考委員会

本会は、優れた研究成果を上げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しています。受賞資格は

- 1) 日本天文学会正会員で、最近おおよそ5年間（※以下参照）における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度初日（2023年4月1日）にすでに正会員であってかつ博士学位取得後8年以内の者。ただし、産休・育休等やむを得ない事情により天文分野での活動に空白期間があれば、その年月は考慮する。

です。毎年3名以内を対象とし、賞状、賞牌（メダル）および賞金（10万円）を併せて授与しています。皆様からの多数の候補者の推薦（自薦も可）をお待ちしております。近年は女性候補者の推薦が少なくなっております。女性候補者の積極的な推薦をお願いします。選考委員会では推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を代議員総会に推薦します。受賞候補者の推薦要領は以下の通りです。

- (1) 締切：2023年11月6日(月) 必着
- (2) 提出書類：○候補者氏名、会員番号、現職、博士学位取得年月日、○授賞対象とする研究の表題（英語表記も）、○推薦者の氏名、現職、連絡先、○推薦理由（300文字程度の要旨とA4で2～3枚

程度の本文、※最近おおよそ5年間の業績を基本とし、それを遡る数年間にも主業績に至る一連の萌芽的研究があれば積極的に記載して下さい)、○関連論文リスト、○推薦に関連して最も重要な論文のコピー(3編以内)

- (3) 提出先: 下記webサイトへのPDFファイルアップロード

webサイト: <https://www.asj.or.jp/jp/activities/prize/shorei/> を通じてPDFファイルをアップロードしていただきます。提出書類を一つのPDFにまとめ、ファイル名を「2023kenkyushorei_full_name」として頂き、webサイトから必要事項をご記入の上でアップロードして下さい。“full_name”は候補者の氏名です。

2023年度(第23回)天文功労賞 候補者推薦のお願い

天体発見賞選考委員会

この賞は、研究機関外での天文活動、例えば長年にわたる天体観測や、突発的な現象の検出・通報などを、称賛し奨励するためのものです。賞の対象となる功績は、天体発見賞・発見功労賞の枠に収まらない天文観測・研究活動です。対象者は、日本在住者、日本国籍を有する個人、または日本に本拠地を置く団体であって、天文学研究を主たる業務としない者(団体)とします。日本天文学会の会員であるかどうかは問いません。選考は、天体発見賞選考委員会が行い、候補者(団体)を代議員総会に推薦します。

この天文功労賞につきまして、日本天文学会の会員の方々からの候補者(団体)の推薦を、広く募集します。A4紙1枚程度で、候補者(団体)名、功績題目(1行程度)、功績の説明を書いていただき、日本天文学会事務所(〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 Fax: 0422-31-5487, e-mail: jim@asj.or.jp)までお送りください。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。推薦は随時受け付けておりますが、今回の選考に確実に乗せるには、2023年11月17日(金)までにお送りください。なにとぞ多数のご推薦をよろしく願います。なお、推薦された候補者について、2023年度に受賞対象とならなかった場合でも、当選考委員会において候補リストに登録し、翌年度以降の選考対象とします。このため、同一の推薦を翌年度以降に重ねて行う必要はありません。ただし、推薦内容に変更がある場合は、再度の提出をお願い致します。

2023年度(第6回)天文教育普及賞候補者 推薦のお願い

天文教育普及賞選考委員会

日本天文学会天文教育普及賞は、天文教育や普及活動の分野で特に顕著な貢献をされた個人や団体を顕彰し奨励して、教育普及活動のさらなる発展を期するものです。対象者は、日本国内・国外またはその両方で活動を行った日本在住者や日本国籍を有する個人、または日本に本拠地を置く団体、及び、日本国内で行われた教育普及活動を実施した外国の個人または団体です。教育普及活動が本務の場合も、本来の業務を大きく超え、社会に強い影響を与え、多大な貢献をした場合は対象となります。また、日本天文学会の会員であるかどうかは問いません。選考は天文教育普及賞選考委員会が行い、候補者を代議員総会に推薦します。

つきましては、日本天文学会正会員・準会員の方々から、候補者(団体)の推薦を広く募集します。A4紙1枚程度で、候補者(団体)名、活動名(1行程度)、活動内容の説明を記載し、必要に応じて補足資料(A4紙5枚程度まで)を添付のうえ、日本天文学会事務所(〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内/Fax: 0422-31-5487/jimu@asj.or.jp)にお送りください。フォーマットの指定は特にありません。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。

なお、連名で推薦される場合は全員が会員である必要はありません。推薦は随時受け付けておりますが、第6回の選考に確実に間に合わせるには、2023年9月30日(土)までにお送りいただくようお願いいたします。なお昨年度推薦いただいた候補者に関しては再推薦の必要はありません。

なにとぞ多数のご推薦をよろしく願います。

2023年度(第6回)日本天文遺産候補推薦 のお願い

日本天文遺産選考委員会

日本天文学会では、歴史的に貴重な天文学・暦学関連の遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝え、その普及と活用を図ることをひとつの使命と考え、日本における天文学(以下、暦学も含む)的な視点で歴史的意義のある史跡・事物に対して日本天文遺産の認定を行っています。対象は原則として次のようなものになります。

- (1) 史跡・建造物：天文学上、重要であった地点や建築・構造物、観測施設など。
- (2) 物品：天文学上の重要な発見に関与する物品や天文学における歴史的意義が高い物品、観測機器や天文学研究に用いられた測定装置など。
- (3) 文献：歴史的意義のある天文学関連の文書類など。

認定された日本天文遺産の管理者等には、認定証および認定されたことを示すパネルまたは楯を贈呈します。これにより対象物の歴史的価値を広く世の中にアピールし、その保全への支援となることを期待しています。皆様からの推薦を参考に天文遺産選考委員会が候補を絞り、日本天文学会代議員総会にて決定します。

日本天文学会の会員（正会員及び準会員）の方々からの候補の推薦を、広く募集します。推薦書は本誌巻末のものをご利用下さい。以下の日本天文学会のサイトからもダウンロードすることができます。

<https://www.asj.or.jp/jp/activities/designation/heritage/>
必要事項を記入の上、日本天文学会事務所（〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内/Fax: 0422-31-5487・jimur@asj.or.jp）にお送りください。送付方法は郵便、Fax、電子メール添付のいずれでも結構です。現在の管理者・所有者に推薦した旨を連絡しておいていただくと幸いです。

2023年度の認定対象の発表と認定証授与式は、2024年3月の日本天文学会春季年会会場にて行う予定です。推薦は、2023年9月30日までに学会事務所へ到着したものを有効とします。候補に対しては必要に応じて現地調査を行います。なお「歴史的」とは長い年月を経ているという意味ではなく、長く後世に伝えていくべき価値を有するものと考えていただければと思います。なにとぞ多数の推薦をよろしくお願いいたします。

なお、推薦された史跡・事物については、2023年

度に日本天文遺産として認定されなかった場合でも、選考委員会において日本天文遺産候補リストに登録し、翌年以降の選考対象とします。このため、同一の史跡・事物を、翌年以降に重ねて推薦する必要はありません。ただし、推薦書記載の内容に変更がある場合は、再度の提出をお願いいたします。

会務案内

1. 公益社団法人日本天文学会2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）事業および決算の報告

事業・決算報告書の電子版を日本天文学会ホームページ上（<https://www.asj.or.jp>）で公開しておりますが、書面による配布を希望される方には別途郵送いたしますので、学会事務所までご連絡ください。

1.1 2022年度事業の報告

2022年9月の秋季年会（新潟大学）及び2023年3月の春季年会（立教大学）は、新型コロナウイルス感染症の状況が改善してきたため、現地とオンライン双方から講演・聴講可能なハイブリッド形式での開催としました。助成金では、早川基金として海外研究活動のための渡航補助を18名（うち1名辞退）に総額約551万円、学術交流費として年会学生発表者に総額約78万円、国内研修支援金として1名へ支給しました。それ以外の活動内容はおおむね例年通りでした。欧文研究報告、天文月報、年会予稿集、ジュニアセッション予稿集の刊行、各種委員会活動、各賞の授与、後援事業を行いました。詳しい事業報告は学会ホームページを参照して下さい。2023年3月31日現在の会員数は以下の通りです。

	正会員（内学生）	準会員	団体会員	賛助会員	合計
2022年3月31日	2,194 (548)	1,019	38	42	3,293
入会	273 (238)	40	0	3	316
退会・除籍等 (うち除籍)	△182 (117) (△18 (0))	△69 (△7)	0 (0)	0 (0)	△251 (△25)
移籍（増）	4 (3)	17	—	—	21
移籍（減）	△17 (1)	△4	—	—	△21
正会員へ（学生減）	△ (75)	—	—	—	—
2023年3月31日	2,272 (596)	1,003	38	45	3,358

(注1：除籍とは会費未納による資格喪失を指す)

(注2：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

1.2. 2022年度決算の報告

2022年度の経常収益は前年度より7,526,767円増、

経常費用は同7,364,049円増、学会の正味財産は2,259,551円増加し142,199,336円となりました。受取

会費は前年度より351,000円減少し40,682,000円でした。

欧文研究報告(PAS)事業では、Oxford University Pressへの委託以来収支が改善し、本年度も収益が経費を上回りました。年会事業では、新型コロナウイルス感染症の蔓延により秋季および春季年会がハイブリッド開催となりました。年会参加者が多かったこと、また会場費等の経費削減の努力により黒字となりました。賛助会費と寄付で運営されている助成事業では、国内研修支援金事業と早川幸男基金、研究奨励賞基金に寄付をいただきました。支援に感謝いたします。

2022年度の公益目的事業会計は1,944,290円の黒字

となりました。これは上述の年会参加者の増加や新型コロナウイルス感染症の影響を受け交通費が抑えられたことなど複数の理由が重なり、特に欧文、月報、年会、その他の事業にて、予算に対して数100万円単位で黒字方向に修正されて執行されたことが要因です。多くが新型コロナウイルス感染症に対して十分に適応できなかったことに起因します。今後、新型コロナウイルス感染症後の時代に適応した予算計画と執行を進める中で、3から5年の期間に安定した公益目的事業の収支バランスを実現していく予定です。事業別決算書内訳は以下のとおりです。

(文責 庶務理事：勝川行雄，会計理事：鈴木竜二)

事業別決算書内訳表

2022年4月1日から2023年3月31日まで

公益社団法人 日本天文学会

(単位：円)

科 目	公益目的事業					
	一般事業					
	共通事業	欧文事業	月報事業	年会事業	その他の事業	小 計
経常収益計	19,624,011	41,988,291	2,302,318	11,817,400	272,030	76,004,050
経常費用計	16,012,717	31,854,269	13,133,265	9,368,707	3,775,914	74,144,872
当期経常増減額	3,611,294	10,134,022	△ 10,830,947	2,448,693	△ 3,503,884	1,859,178

科 目	公益目的事業						公益目的 事業計
	助成事業						
	学術交流費 事業	国内研修 支援金事業	研究奨励賞 事業	早川基金 事業	林賞事業	小 計	
経常収益計	735,095	10,642	735,012	5,522,171	451,676	7,454,596	83,458,646
経常費用計	798,852	126,540	470,245	5,522,171	451,676	7,369,484	81,514,356
当期経常増減額	△ 63,757	△ 115,898	264,767	0	0	85,112	1,944,290

科 目	法人会計	内部取引 消去	合 計
経常収益計	19,700,412	0	103,159,058
経常費用計	16,952,746	0	98,467,102
当期経常増減額	2,747,666	0	4,691,956

入会・移籍・退会のお知らせ

2023年6月11日に開催された公益社団法人日本天文学会理事会において、正式に入会・移籍が承認された方、退会が報告された方の人数をお知らせします。

入会 正会員：13名 準会員：3名
退会 正会員：14名 準会員：15名

訂 正

・天文月報2023年7月号（第116巻7号）のシリーズ：天文学者たちの昭和「佐藤文隆氏ロングインタビュー」388ページ本文内で、下記の通り人名に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

誤：鈴木増男

正：鈴木増雄

2022年度ご寄付者名

2022年度に日本天文学会へご寄付をいただいた方々です。深く感謝申し上げます。

(敬称略/受付順)

川端周作, 佐藤明達, 中沢陽

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2023

パスワード：雑誌コード（5桁の数字）と **vol116**（6文字）の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

編集委員：津村耕司（委員長）、岩崎一成、小野寺仁人、勝田哲、川中宣太、西澤淳、仏坂健太、岡本文典、

日下部展彦、小山翔子、志達めぐみ、鈴木大介、鳥海森、信川久実子、橋本拓也、宮本祐介

令和5年8月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町332-6 株式会社 国際文献社

定価733円（本体667円） 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務所）/ 0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <https://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2023年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）